

〈要約〉

公共溝渠の源流探し (1)

The survey of headwaters of urban drainage ditches

遠藤 ユウキ
Yuuki Endo

近年、都心では、地形ブームから暗渠やドブ川の痕跡を探す「まち歩き」の愛好家が増えている。都市化が進んだ都心だが、台地の谷には地形が残り、消えたドブ川を感じることができるからだ。ならば、地形の特徴が小さい低地ではどうだろうか。

低地は、地形の雰囲気からドブ川の跡を特定するのは難しいが、古地図などの資料から探し出すのは可能である。ところが、管見の限りだが、書籍や資料では東京低地のドブ川について、ドブ川化に関する詳しい変化が記述されていない。そして、逆流を含む流水方向に関する記述もなされておらず、結果的に、愛好家達にとっては間違った情報となっていたのである。

本稿は、水面の消えたドブ川跡から、当時の流水方向を考察するものである。

第1部では、河川やドブ川（公共溝渠）についての概要と、低地における流水方向を考察する必要性について述べる。

続く第2部では、1980年代に行なった筆者の調査を元に、ドブ川の源流と流水方向を考察するものである。

この考察から、ドブ川時代の公共溝渠に源流と呼べる存在はなく、あるのはいくつもの分水界であることが判明した。結論は、流水方向を考察する上で重要なことは、「排水場が水を引っ張る」ことである。